

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	14934000178	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月1日
法人名	株式会社 アイシマ		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	( 246-0023 )		
	神奈川県横浜市瀬谷区阿久和東4-32-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果 市町村受理日	令和3年2月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは瀬谷区阿久和の住宅街の一角にあり、開所以来、自治会からもご支援いただき地元の方からは季節ごとに畑で収穫されたお野菜の提供があり、入居者様には実際とれたての野菜に触れ献立を一緒に考え決定することも多く、文字通り地域に密着したホームです。利用者様の笑顔を一番大切に、近所の方々や職員との信頼関係を築いているため、ホーム内は大変落ち着いております。すぐそばにある「原小学校」との交流は毎年2年生全クラスの訪問を受け、昔遊びや生徒の発表の場として提供・毎年参加する盆踊り・運動会では瀬谷音頭を一緒に踊るなど地域資源の活用も入居者様の笑顔の生活につながっております。生活リハビリとしては「出来る事を失わせないケア」に重点を置き、食器洗い・調理の下ごしらえなど残存機能を大切に入居者様がそれぞれの場面で活躍でき自信をもって生活していく。また入居者様・職員にこだわる事なく「ありがとう」の言葉が飛び交う温かいホームです。家族参加の行事も年2回実施。ご家族が心待ちにしており毎年参加人数に制限がかかるほどの大盛況となっております。今後もご家族・職員が一丸となり利用者様の笑顔と穏やかに自信ある暮らしを支えていきたいと思っております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年11月13日	評価機関 評価決定日	令和3年1月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、相鉄線「三ツ境」駅からバスで10分、バス停「阿久和」から徒歩5分の所に位置しています。法人は県内にグループホーム24ヶ所の他、小規模多機能型居宅介護、訪問介護、訪問看護、福祉用具など多数の事業所を展開しています。

<優れている点>  
「ほのぼのこそ、わが家」と利用者が感じることができ、利用者がありのままの姿で安心して過ごせるホームを目指しています。そのためにも、その時々を利用者の体調や気持ちにそって、臨機応変な対応を心掛けています。ラーメン屋に付き添ったり、菩提寺探しを手伝ったりと、一人ひとりを大切にされた個別ケアの提供が、利用者の自己肯定感を高めています。

利用者家族に「職員を育てていこう」との気風があり、その気持ちに応えようと懸命に努力を重ねた職員達。その職員の下、今は次世代のリーダーが育ってきています。ホームには利用者や職員の明るく弾んだ声がかこもりに聞こえています。育て合い、学び合い、より良いケアを目指す職員の真摯な姿勢がホームの力量となっています。「ケアの軸が欲しい」と言う職員の声に応え、管理者がホーム独自のマニュアルを作り、随時更新しています。

<工夫点>  
ヘアカットの雰囲気づくりとして、訪問美容師にカフェエプロンを付けてもらい、サロン風音楽を流し、ヘアスタイルカタログを差し出すなど利用者が日々の暮らしを楽しめるよう工夫しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ほのぼの
ユニット名	なごみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	組織の理念・ホームの理念のカードを作成・ミーティング時などで理解を深めるよう努めております。またカードは個人で所有し、支援に迷いが出た時など、自身で振り返り理念に基づく支援の統一を行っております。	理念が日々の支援の拠り所となっています。理念を記したカードにラミネート加工を施して携帯しています。法人理念の「施設主体主義」は、職員が自分たちの思いや希望を実現していく原動力となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会は宮ノ越自治会に所属、利用者や職員は自治会の敬老会・運動会・昼食会に参加しており、自治会の方とも顔なじみです。毎年参加するホームとして、参加の可否の確認の前に既に席の確保があるほどです。小学生の来訪もあり、盆踊りなどは一緒に踊っております。今年はコロナ感染症により実施しておりません。	新型コロナウイルス感染拡大以前に培ってきた地域との交流が、コロナ禍の現在にも大きな力を発揮しています。散歩途中には近隣の人と笑顔で挨拶を交わし、町内会長からは手作り新鮮野菜の差し入れがあります。テラスでティータイムを楽しむ光景が地域に溶け込み、玄関ホールには小学生の力作「スイミー」が壁を飾っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事に参加することで認知症の方の特徴や行動を知って頂く事に努めております。実際のケアを見ていただきたく見学の希望があれば開放をしております。また行事に参加することで自宅介護の方のお話をする機会もあり、町内会長の協力の元現在に至ります。今年はコロナ感染症により実施しておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の運営推進会議では、利用者の日常生活の報告を行い、アドバイスを頂いております。行事などの参加依頼や、実際にいる利用者様を知っていただき、率直な意見を伺い取り入れれ共に利用者様の利益につなげております。（現在はコロナ感染症の為中止となっております）	コロナ禍により今年3月から運営推進会議は中止しています。現在は活動状況報告書を会議出席メンバー宅に持参するとともに、利用者家族全員に郵送して、ホームの活動の周知に努めています。家族との電話連絡やメールのやり取りの際の、何気ない一言やアドバイスを大切にしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括職員とは連絡を取り合い情報を共有しております。又瀬谷区役所とは地域密着型サービス事業所連絡会を通じ意見交換や研修に参加。また昨年度より介護相談員派遣事業にも参加・受け入れをし、情報の共有に努めております。（現在はコロナ感染症の為中止となっております）	コロナ禍でのサービス提供について、瀬谷区役所や地域包括支援センターへ不明点や疑問点を問い合わせています。現在は、運営推進会議の開催やボランティアや介護相談員の受け入れを一旦中止にしています。また、新型コロナウイルス感染者が確認された他事業所の情報を得て、対応を学んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開所以来13年間は施錠しないホームとして地域に周知されておりましたが、29年度の障害者をターゲットにした事件を受けご家族からの強い要望で30年度より施錠を実施。地域の方、ご家族の方に安全と安心を提供。身体拘束の勉強会にも参加し常にケアの実践に結びつけております。（現在はコロナ感染症の為に中止となっております）	事業所のモットーである「拒否をしない関係づくり」の具体化として、利用者の行動抑制は一切していません。身体拘束チェックシートを活用して、定期的に自己点検に取り組んでいます。コロナ禍により内部研修は中止していますが、法人主催の身体拘束廃止委員会が推薦した書物を順番に読み込むなど、日々学びを継続しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者・職員は内外の研修に参加学び常にホームでのケアはどうかを振り返りミーティングを行っております。また お互いにコミュニケーションをとる事で支援方法などについても気軽に話せる職場作りに努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修などに参加をし、ミーティングなどで話をしております。該当利用者がいる場合などに理解を深めるよう話し合いに努めております。（現在はコロナ感染症の為に中止となっております）		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には納得いくまでご家族に説明をします。不安な事など何でも話せる環境作りに努め、何度でも説明をし理解して同意をしていただけるよう時間をじっくりとれるよう努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関にご意見箱を用意をし自由に書いていただけるようになっておりますが、管理者や職員が話しやすい雰囲気大切にしている結果、直接伝えて下さります。利用者様も希望や意見が自由に言える環境なので、食事の献立が急遽変更になる事もあります。席替えも定期的に行い希望にそう努力を惜しみません。	午後のお茶の時間など利用者とのさり気ない会話の中から、食事や理容などについての希望を聞き、出来ることは直ぐにでも実行しています。家族の訪問時や運営推進会議で、行事などについての意見を聞いています。写真入りの「ほのぼのだより」を発行し、利用者の様子を家族に伝え感想を聞いています。介護相談員の来訪を準備しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1階のミーティング時に管理者からの報告や伝達に終始せず、必ず職員に意見を求めホームの運営参加しているという自覚を持ってもらう努力をしています。否定をしない対話を現在も大切に支援実現を目指しております。	ミーティングでは事業所の方針伝達だけでなく、必ず職員の意見を求めています。ゴミのストックボックスやエアコンの風防ネットの設置などは職員意見による改善です。全てのアイデアは「否定しないで、まずはやってみる」という方針なので、色々な提案が出て来ます。日々のシフト設定も職員主導です。	管理者・職員共に、支援の質と量を更に向上させたいという熱意を持っています。ケア記録の効率を図り、支援時間を増やす為にも、ICT化の検討も期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員のそれぞれの特性や能力を認め合い資格の取得を進めております。職員のそれぞれの能力が生かせる職場の環境作りを実施。一人一人が生き生きと働けるよう否定をしない指導に努めております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回の勉強会の参加。当ホームでは全員が参加する気持ちをそれぞれが持っており、働きながら自身を磨いております。そのための時間作りを大切にしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会・介護相談員の方との交流を通じ、研修に参加し学び、サービスの質の向上に取り組んでおります。管理者個人のネットワーク作りも積極的に行い情報交換や研修参加に結びつけております。地域密着型サービス連絡会の情報交換などにも積極的に参加するよう努めております。（現在はコロナ感染症の為中止となっております）		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスを利用される前に本人の情報を収集し、また時間が許す限り面談にも伺います。スムーズな入所・ホームでの暮らしにつながる様配慮しております。何度もお話することで不安を取り除き寄り添う姿勢を現在も継続しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの経緯を時間をかけて聞く事により、ご家族のご苦勞も理解するとともに、労う事から始めています。また入居前にご家族とお話することで話しやすい関係を築く事で入所の不安を少しでも解消するよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族からの情報を重要と考え、まずは今までの生活リズムをいきなり変えるのではなく、柔軟な取り組みをしていながら、ご本人の課題を見つけてご家族へ連絡をしています。ご本人にあった支援を提案しご家族と一緒に考える事で他サービスを利用することなど決定しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	料理に関しては下ごしらえ、食器洗い。洗濯たたみなどなじみの生活を維持することで、共に助け合っているという自信と職員との関係を築いております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の一番の理解者はご家族と考え、意思決定などは必ずご家族に連絡をします。また支援に関しては、連絡しご家族と一緒に考える事で、自分達も支援に参加しているというお気持ちを継続していただけるようアプローチに努めております。（理念のもと）		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	一人一人の生活環境を尊重し、面会などの希望がある時は実現をしております。コロナ感染症の中、面会が難しい時は電話での対話を大切にしております。ご家族と共に外出機会も制限することなく実現できるよう努めております。	入居前の生活歴・家族関係・趣味・食事の趣向・好き嫌いの感情などを把握し、馴染みの関係を続けるように配慮しています。入居後に利用者同士の仲良い関係が生まれたり、町内会館で毎月開催の「モガ・カフェ」で知人が出来たり、町内会の催事で近隣の住人と馴染みの関係も出来ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆で仲良く過ごす時間や、気の合う人同士で仲良く過ごせるように気配りし、その場面作りに働きかけています。孤立されていると感じた時には職員がさりげなく介入し良好な関係を築けるように支援をしているためか、利用者同士思いやる姿がよくみられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した家族の方へは、終了するにあたっての対話を大切にしています。ご家族が抱える不安をできるだけ取り除き一緒に考え解決できるよう支援しております。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との対話を大切にし一人一人の希望や意向を把握し、家族とも話し合いに努め意向を組む努力をしています。意思の把握が困難な方にはその時々々の場面においてその方の笑顔を基本にし、何をしたらより笑顔になるか観察し思いの把握に努めています。	職員は日頃から一人ひとりの個性を把握しており、その時々々の思いや意向は表情や仕草で察しています。会話が難しい人用に小さなホワイトボードが置いてあります。体操の先生だった人には体操の時に前に出てもらったり、英語が得意な人には英語で歌を歌って、現役時代を思い出してもらっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に入居までの経緯や成育歴、趣味、好きな食べ物、嫌いな食べ物、されて嫌な事、嬉しい事など細かい情報を頂き、その情報からかけ離れることがないように気を配り、馴染みの暮らしが継続出来る様に努めながら情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様との何気ない会話や仕草の観察に努め、さらに情報を共有し正しい見極めが出来る様に努めています。何事にもすぐに結果を求めず、ゆっくりと見守り出来る事、難しい事を見極め出来る事を失わないケアの実践につなげます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族・主治医・職員の話し合いから介護計画を作成しますが、特に家族や本人の思いは十分に反映させ、共に主治医・看護師のアドバイスを受け作成しています。毎月1回必ずミーティングをし、問題があれば現状にあったプランに変更しています。	毎月のミーティングでの利用者に関する話合いが実質的にカンファレンスとモニタリングになっています。これを基に引継ぎノートや医療連携ノートで確認しながら、必要に応じてケアプランの見直しをしています。日頃の密接な関係を生かして家族の意見を聞き、ケアプランを説明し了解を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の様子観察・実際に行ったケアを個別に記録・気づきや工夫を職員間で共有し統一したケアや見直しを行い介護計画に生かします。朝の申し送りでは夜間帯気付いた問題もその場で報告、話し合いケアの見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族、職員と必要に応じいつでもカンファレンスを行える様に努め必要に応じ、主治医や看護師の意見もすぐに反映できる体制が出来ています。家族の協力も得る事ができていますので、その時々ニーズにスピード感もち対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の資源は地域ケアプラザや町内の回覧板などで把握し、参加できる場所には出来る限り顔を出し、地域の方と利用者との間で顔の見える関係になるような支援を続けており、敬老会・運動会・盆踊りで踊ったり楽しんだりして頂いています。（現在はコロナ感染症の為に中止となっております）		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	二人の主治医の中から本人及び家族の希望に添う主治医を選び、更に必要に応じてホームの協力医だけではなく、昔からの馴染みのかかりつけ医に通院している方もいます。通院もご家族が難しい時はホームで対応しています。	医師との信頼関係や今までの経緯に重点を置き、かかりつけ医の選択は利用者と家族に任せています。医師や訪問看護師への連絡は、早めの対応を心掛け状態変化時の安心につなげています。処方内容が変更した際に、職員が副作用の症状に気づき、減薬が実現した利用者もいます。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問時に健康上の問題点を相談、より良い生活が送れるようにアドバイスを受けます。相談事には医療連携ノートを活用し互いに情報の共有をし連携をとっています。緊急時にはいつでも指示を仰げ必要に応じて医師につないでもらえます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院の為の話し合いや協力を家族と十分に行い医療機関と協力し、速やかな退院支援を行っています。そのために、協力医療機関だけではなく他の医療機関の地域医療連携室とも情報交換を行い関係を深めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化の指針を契約時に渡し、必要になった時に早い段階で家族や本人と話し合い説明、同意を得ています。何よりも本人の気持ちを大切に家族と話し合い、利用者が安心して穏やかな終末期を過ごして頂ける様に努めています。今回も本人の意思確認をし記録に残し主治医に伝えていきます。	看取りや延命措置について、契約時に利用者や家族の意向を確認しています。その後も状態変化や揺れ動く利用者や家族の気持ちに寄り添いながら、話し合いを重ねています。初七日までは居室をそのままにして、在りし日の写真を飾って語り合い、ホームの皆で別れを惜しむなどの配慮もしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成し、事務所内に掲示したり、勉強会を実施し対応できるように、食事のむせ込みや物が詰まった時の対応など全ての職員が対応処置できるように訓練を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練をはじめ、避難経路の確認や消火器の扱い方の訓練を行っています。今年度はコロナ感染症予防の為訓練予定が中止となっておりますが、災害用備蓄を見直しや、消火器の点検を自主的に行っております。	今年の避難訓練はコロナ禍により延期していますが、災害対策を再確認しています。20名1週間分の備蓄を確保し、ヘルメットや照明を玄関ホールに備え、消火器点検を行っています。道路向こうの小学校が地域防災拠点のため、大きな安心につながっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は明るい表情で利用者と接するように心がけ、利用者が嫌悪感や負担感を感じる事がないようにさりげない介護の実践に努めています。接遇についてもホーム独自の行動の指針を設け態度や言葉使いなどを入職時や勉強会で確認しています。	利用者がこれまで経てきた人生に思いを馳せ、年長者への敬意を大切にしています。なれ合いにならないように、言葉を選んで接するように心掛けています。廊下ですれ違う時に言葉をかけたり、目が合った時は軽く会釈するなど、職員の何気ない行動に利用者を尊重する思いが表れています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃の会話から本人の思いをくみとり、食事に反映させたり、靴の買い替え時などは一緒にカタログをみたり、何点か実際に履き比べていただき自身で決定する喜びを味わって頂いています。今年は外出が難しかったので、お寿司が食べたいの希望を叶え出前を頼み楽しみました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしさを大切に守り、その時の気持ちに寄り添う柔軟な対応を心がけ無理強いしない支援を継続しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	女性が多いホームですので、外出時やお客様も迎える時には、本人の意向を確認しながら、おしゃれをするためのお手伝いをさせていただきます。紅をぬるだけでも素敵な笑顔を取り戻されヘアスタイルもしっかりとした美容師の方に来てもらい喜ばれております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ひな祭りなどは、一緒に柏餅をつくりおやつに皆さんで召し上がりました。またたこ焼き・じゃが餅つくりを一緒に行い、おやつにワイワイと頂く事も大切にしております。	テーブル拭き、湯茶入れ、箸配りなどを利用者が率先して行っています。家庭と同様、冷蔵庫の食材を見てから献立を決めています。プランターで収穫したかぼちゃ、なす、ピーマン、ゴーヤなどが急遽メニューに入る時もあります。行事の際には、寿司の出前を注文する楽しみもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	週に一度の体重管理を指針として、3品以上配膳・水分は1日1300ccを目標とにして摂取していただいています。食品が偏る事なく提供できるよう心掛け本人に合わせた形態にして配膳。難しい時などは、本人のペースに合わせて介助を行い提供させていただきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	週1回、歯科訪問があり、状態観察を行うと共に一人一人の口の中の状態に応じて、それぞれの方にふさわしいケアを心がけています。歯科医と連携を取る事で助言アドバイスを受け常に口腔内清潔に保つ支援を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握する支援を行っております。出来る限りトイレでして頂ける事を目標とし、ご本人の自信の継続につなげております。	昼間は出来る限り自立を優先しています。夜間も自立優先ですが、見守りをしっかりしています。おむつ交換は定時優先でなく睡眠を優先しています。バナナヨーグルト・オリーブオイルの利用やお腹体操などで、日常的に便秘対策を行っています。便秘は3日程度を目途として、下剤などで対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	午前中のバナナヨーグルトをとっていただき、また看護師さんのアドバイスを受け朝の体操の後にお腹の体操を取り入れたり、体を動かして頂き便秘予防を心がけております。オリゴ糖やオリーブオイルなど出来るだけ自然の力で排泄できるよう支援しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	誘導の声かけや方法をチームで協力しタイミングを計ってさそう事により、気持ちよく入浴していただいています。香りを楽しんでもいただくよう、入浴剤なども活用してリラックスして入浴できるよう焦らない入浴支援を心がけております。	週に2回が基準ですが、曜日や順番などはその時々状況に合わせて対応しています。長風呂の人、嫌がる人、シャワーだけの人なども職員が工夫し対応しています。入浴剤で香りを楽しみ、風呂上がりには医師処方保湿剤などを塗布しています。入浴時に利用者の本音を聞けることもあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	主に午前中は体操やレクレーション活動に力を入れ、午後は一人一人の生活リズムに合わせて休息をとれるように無理強いすることなく、お勧めしています。(時よりお部屋で女子会をしている場面もあります) また、3時以降は夜間の安眠に備えて穏やかに過ごして頂ける様環境整備に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬の声明書を個人ファイルで保管し必要に応じて職員誰もが内容の把握ができるようにしています。また副作用が疑われる症状が出た時には直ちに主治医に報告し早めに対応をしています。服薬もその方に合った方法で支援致します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人が無理のない役割を持ち、自信のある生活できるように個々を見極め支援しています。役割としては、テーブル拭き・お茶入れ・箸配り・掃除・洗濯たみ・洗濯干し・植木の水やり・食器洗い・食器拭き・もやしの芽取りなど積極的に参加されております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染症予防の観点より今年は実地しておりません。	通常時には毎月、多い月は毎週のように外出計画があります。花見などの季節行事・町内会行事・近くの小学校との交流・町内会館でのモガカフェやファミリーレストランでのお茶会や音楽療法・ドライブなど、忙しい位の外出があります。現在は家族と一緒に、庭のテラスや駐車場でお茶飲みや日光浴をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	今年はコロナ感染予防により実施できておりません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は要望があれば、お話できる支援をおこなっております。またご家族にも連絡をし、電話をしていただくようにとご協力いただいております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングや居室扉には季節を感じていただけるように、職員と共同制作した掲示物を掲げております。また畳式ベンチ・ソファは皆さんが何時でもくつろげるように設置しております。	室温は25℃を基準に管理しています。冬場の乾燥期には、数ヶ所に加湿器を置いています。夏冬共にエアコンからの風が直接当たらないよう、職員のアイデアで吹き出し口に薄布カバーをしています。掃除が得意な職員を中心に共用空間を清潔にしています。壁面には行事の写真や職員の作品、交流のある小学生の作品を楽しく飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに椅子やソファがあり仲の良い利用者同士でくつろげる様に配慮しております。時より気持ちよく居眠りをする方もおります。また一人になりたいときには奥にも椅子がありおひとりの時間も大切にしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族の方と相談しながらなじみの物や家具を選んで心地よく過ごして頂ける環境作りに努めています。その人らしいお部屋作りを大切にしております。	ベッド、防災カーテン、エアコンは事業所の備品です。入口ドアは防火扉です。配線コードなど動線の妨げ防止のチェック以外は、家具の配置は自由です。毎日の窓開けモップ掛けなど、動ける利用者は自ら行っています。寝具リネン類の洗濯は定期的に行い、天気の良い日は布団干しもしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	その方の状態をよく観察し危険と思われる物はご家族に相談し了承を得て排除し、建物内居室内で出来るだけ自立した生活が送れるように工夫をしています。特に電気コードなどの危険があるものに関しては配置に配慮し、職員は常に安全に配慮し点検気配りをしています。		

事業所名	グループホームほのぼの
ユニット名	のぞみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	組織の理念・ホームの理念のカードを作成・ミーティング時などで理解を深めるよう努めております。またカードは個人で所有し、支援に迷いが出た時など、自身で振り返り理念に基づく支援の統一を行っております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会は宮ノ越自治会に所属、利用者や職員は自治会の敬老会・運動会・昼食会に参加しており、自治会の方とも顔なじみです。毎年参加するホームとして、参加の可否の確認の前に既に席の確保があるほどです。小学生の来訪もあり、盆踊りなどは一緒に踊っております。今年はコロナ感染症により実施しておりません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事に参加することで認知症の方の特徴や行動を知って頂く事に努めております。実際のケアを見ていただきたく見学の希望があれば開放をしております。また行事に参加することで自宅介護の方のお話をする機会もあり、町内会長の協力の元現在に至ります。今年はコロナ感染症により実地しておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の運営推進会議では、利用者の日常生活の報告を行い、アドバイスを頂いております。行事などの参加依頼や、実際にいる利用者様を知っていただき、率直な意見を伺い取り入れ共に利用者様の利益につなげております。（現在はコロナ感染症の為中止となっております）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括職員とは連絡を取り合い情報を共有しております。又瀬谷区役所とは地域密着型サービス事業所連絡会を通じ意見交換や研修に参加。また昨年度より介護相談員派遣事業にも参加・受け入れをし、情報の共有に努めております。（現在はコロナ感染症の為中止となっております）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開所以来13年間は施錠しないホームとして地域に周知されておりましたが、29年度の障害者をターゲットにした事件を受けご家族からの強い要望で30年度より施錠を実施。地域の方、ご家族の方に安全と安心を提供。身体拘束の勉強会にも参加し常にケアの実践に結びつけております。（現在はコロナ感染症の為中止となっております）		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者・職員は内外の研修に参加学び常にホームでのケアはどうかを振り返りミーティングを行っております。また お互いにコミュニケーションをとる事で支援方法などについても気軽に話せる職場作りに努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修などに参加をし、ミーティングなどで話をしております。該当利用者がある場合などに理解を深めるよう話し合いに努めております。（現在はコロナ感染症の為中止となっております）		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には納得いくまでご家族に説明をします。不安な事など何でも話せる環境作りに努め、何度でも説明をし理解して同意をしていただけるよう時間をじっくりとれるよう努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関にご意見箱を用意をし自由に書いていただけるようになっておりますが、管理者や職員が話しやすい雰囲気を大切にしている結果、直接伝えて下さります。利用者様も希望や意見が自由に言える環境なので、食事の献立が急遽変更になる事もあります。席替えも定期的に行い希望にそう努力を惜しみません。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1階のミーティング時に管理者からの報告や伝達に終始せず、必ず職員に意見を求めホームの運営参加しているという自覚を持ってもらう努力をしています。否定をしない対話を現在も大切に支援実現を目指しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員のそれぞれの特性や能力を認め合い資格の取得を進めております。職員のそれぞれの能力が生かせる職場の環境作りを実施。一人一人が生き生きと働けるよう否定をしない指導に努めております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回の勉強会の参加。当ホームでは全員が参加する気持ちをそれぞれが持っており、働きながら自身を磨いております。そのための時間作りを大切にしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会・介護相談員の方との交流を通じ、研修に参加し学び、サービスの質の向上に取り組んでおります。管理者個人のネットワーク作りも積極的に行い情報交換や研修参加に結びつけております。地域密着型サービス連絡会の情報交換などにも積極的に参加するよう努めております。（現在はコロナ感染症の為中止となっております）		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスを利用される前に本人の情報を収集し、また時間が許す限り面談にも伺います。スムーズな入所・ホームでの暮らしにつながる様配慮しております。何度もお話することで不安を取り除き寄り添う姿勢を現在も継続しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの経緯を時間をかけて聞く事により、ご家族のご苦勞も理解するとともに、労働事から始めています。また入居前にご家族とお話することで話しやすい関係を築く事で入所の不安を少しでも解消するよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族からの情報を重要と考え、まずは今までの生活リズムをいきなり変えるのではなく、柔軟な取り組みをしていながら、ご本人の課題を見つけてご家族へ連絡をしています。ご本人にあった支援を提案しご家族と一緒に考える事で他サービスを利用することなど決定しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	料理に関しては下ごしらえ、食器洗い。洗濯たたみなどなじみの生活を維持することで、共に助け合っているという自信と職員との関係を築いております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の一番の理解者はご家族と考え、意思決定などは必ずご家族に連絡をします。また支援に関しては、連絡しご家族と一緒に考える事で、自分達も支援に参加しているというお気持ちを継続していただけるようアプローチに努めております。（理念のもと）		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	一人一人の生活環境を尊重し、面会などの希望がある時は実現をしております。コロナ感染症の中、面会が難しい時は電話での対話を大切しております。ご家族と共に外出機会も制限することなく実現できるよう努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆で仲良く過ごす時間や、気の合う人同士で仲良く過ごせるように気配りし、その場面作りに働きかけています。孤立されていると感じた時には職員がさりげなく介入し良好な関係を築けるように支援をしているためか、利用者同士思いやる姿がよくみられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した家族の方へは、終了するにあたっての対話を大切にしています。ご家族が抱える不安をできるだけ取り除き一緒に考え解決できるよう支援しております。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との対話を大切にし一人一人の希望や意向を把握し、家族とも話し合いに努め意向を組む努力をしています。意思の把握が困難な方にはその時々場面においてその方の笑顔を基本にし、何をしたらより笑顔になるか観察し思いの把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に入居までの経緯や成育歴、趣味、好きな食べ物、嫌いな食べ物、されて嫌な事、嬉しい事など細かい情報を頂き、その情報からかけ離れることがないように気を配り、馴染みの暮らしが継続出来る様に努めながら情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様との何気ない会話や仕草の観察に努め、さらに情報を共有し正しい見極めが出来る様に努めています。何事にもすぐに結果を求めず、ゆっくりと見守り出来る事、難しい事を見極め出来る事を失わないケアの実践につなげます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族・主治医・職員の話し合いから介護計画を作成しますが、特に家族や本人の思いは十分に反映させ、共に主治医・看護師のアドバイスを受け作成しています。毎月1回必ずミーティングをし、問題があれば現状にあったプランに変更しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の様子観察・実際に行ったケアを個別に記録・気づきや工夫を職員間で共有し統一したケアや見直しを行い介護計画に生かします。朝の申し送りでは夜間帯気付いた問題もその場で報告、話し合いケアの見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族、職員と必要に応じいつでもカンファレンスを行える様に努め必要に応じ、主治医や看護師の意見もすぐに反映できる体制ができています。家族の協力も得る事ができていますので、その時々ニーズにスピード感をもち対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の資源は地域ケアプラザや町内の回覧板などで把握し、参加できる場所には出来る限り顔を出し、地域の方と利用者との間で顔の見える関係になるような支援を続けており、敬老会・運動会・盆踊りで踊ったり楽しんだりして頂いています。（現在はコロナ感染症の為中止となっております）		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	二人の主治医の中から本人及び家族の希望に添う主治医を選べ、更に必要に応じてホームの協力医だけではなく、昔からの馴染みのかかりつけ医に通院している方もいます。通院もご家族が難しい時はホームで対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問時に健康上の問題点を相談、より良い生活が送れるようにアドバイスを受けます。相談事には医療連携ノートを活用し互いに情報の共有をし連携をとっています。緊急時にはいつでも指示を仰げ必要に応じて医師につないでもらえます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院の為の話し合いや協力を家族と十分に行い医療機関と協力し、速やかな退院支援を行っています。そのために、協力医療機関だけではなく他の医療機関の地域医療連携室とも情報交換を行い関係を深めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化の指針を契約時に渡し、必要になった時に早い段階で家族や本人と話し合い説明、同意を得ています。何よりも本人の気持ちを大切に家族と話し合い、利用者が安心して穏やかな終末期を過ごして頂ける様に努めています。今回も本人の意思確認をし記録に残し主治医に伝えていきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成し、事務所に掲示したり、勉強会を実施し対応できるように、食事のむせ込みや物が詰まった時の対応など全ての職員が対応処置できるように訓練を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練をはじめ、避難経路の確認や消火器の扱い方の訓練を行っています。今年度はコロナ感染症予防の為訓練予定が中止となっておりますが、災害用備蓄を見直しや、消火器の点検を自主的に行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は明るい表情で利用者と接するように心がけ、利用者が嫌悪感や負担感を感じる事がないようにさりげない介護の実践に努めています。接遇についてもホーム独自の行動の指針を設け態度や言葉使いなどを入職時や勉強会で確認しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃の会話から本人の思いをくみとり、食事に反映させたり、靴の買い替え時などは一緒にカタログをみたり、何点か実際に履き比べていただき自身で決定する喜びを味わって頂いています。今年は外出が難しかったので、お寿司が食べたいの希望を叶え出前を頼み楽しみました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしさを大切に守り、その時の気持ちに寄り添う柔軟な対応を心がけ無理強いしない支援を継続しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	女性が多いホームですので、外出時やお客様も迎える時には、本人の意向を確認しながら、おしゃれをするためのお手伝いをさせていただきます。紅をぬるだけでも素敵な笑顔を取り戻されヘアスタイルもしっかりとした美容師の方に来てもらい喜ばれております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ひな祭りなどは、一緒に柏餅をつくりおやつに皆さんで召し上がりました。またたこ焼き・じゃが餅づくりを一緒に行い、おやつにワイワイと頂く事も大切にしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	週に一度の体重管理を指針として、3品以上配膳・水分は1日1300ccを目標とにして摂取していただいています。食品が偏る事なく提供できるよう心掛け本人に合わせた形態にして配膳。難しい時などは、本人のペースに合わせて介助を行い提供させていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	週1回、歯科訪問があり、状態観察を行うと共に一人一人の口の中の状態に応じて、それぞれの方にふさわしいケアを心がけています。歯科医と連携を取る事で助言アドバイスを受け常に口腔内清潔に保つ支援を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握する支援を行っております。出来る限りトイレでして頂ける事を目標とし、ご本人の自信の継続につなげております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	午前中のバナナヨーグルトをとっていただき、また看護師さんのアドバイスを受け朝の体操の後にお腹の体操を取り入れたり、体を動かして頂き便秘予防を心がけております。オリゴ糖やオリーブオイルなど出来るだけ自然の力で排泄できるよう支援しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	誘導の声かけや方法をチームで協力しタイミングを計ってさそう事により、気持ちよく入浴していただいています。香りを楽しんでいただくよう、入浴剤なども活用してリラックスして入浴できるよう焦らない入浴支援を心がけております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	主に午前中は体操やレクリエーション活動に力を入れ、午後は一人一人の生活リズムに合わせて休息をとれるように無理強いすることなく、お勧めしています。(時よりお部屋で女子会をしている場面もあります) また、3時以降は夜間の安眠に備えて穏やかに過ごして頂ける様環境整備に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬の声明書を個人ファイルで保管し必要に応じて職員誰もが内容の把握ができるようにしています。また副作用が疑われる症状が出た時には直ちに主治医に報告し早めに対応をしています。服薬もその方に合った方法で支援致します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人が無理のない役割を持ち、自信のある生活できるように個々を見極め支援しています。役割としては、テーブル拭き・お茶入れ・箸配り・掃除・洗濯たたみ・洗濯干し・植木の水やり・食器洗い・食器拭き・もやしの芽取りなど積極的に参加されております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染症予防の観点より今年はいまだ実施しておりません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	今年はいまだコロナ感染予防により実施できておりません。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は要望があれば、お話できる支援をおこなっております。またご家族にも連絡をし、電話をしていただくようにとご協力いただいております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングや居室扉には季節を感じていただけるように、職員と共同制作した掲示物を掲げております。また畳式ベンチ・ソファは皆さんが何時でもくつろげるように設置しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに椅子やソファがあり仲の良い利用者同士でくつろげる様に配慮しております。時より気持ちよく居眠りをする方もおります。また一人になりたいときには奥にも椅子がありおひとりの時間も大切にしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族の方と相談しながらなじみの物や家具を選んで心地よく過ごして頂ける環境作りに努めています。その人らしいお部屋作りを大切にしております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	その方の状態をよく観察し危険と思われる物はご家族に相談し了承を得て排除し、建物内居室内で出来るだけ自立した生活が送れるように工夫をしています。特に電気コードなどの危険があるものに関しては配置に配慮し、職員は常に安全に配慮し点検気配りをしています。		

令和2年度

事業所名 グループホームほのぼの

作成日： 令和3年 1月 26日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	記録に対して、時間がかかりすぎてしまう。内容を分かりやすく、シンプルに記入できるように職員に伝えていく。	どの職員が記入しても、同じ目標と支援ができていく状態にする。	勉強会を開く。ケアプランの内容にそったケア記録のかきかたを皆で共有できるように、ユニット会議の中に勉強会を盛り込む。	6ヶ月
2		ご家族アンケートを踏まえ、ホームでの生活やケアプランについて、まだまだ分からない事があるとの意見があった。	面会の有無に関わらず、ご家族に対して個別対応をしていく。	面会になかなか来られない家族には、個別でお手紙などで対応していく。現在の様子を写真など分かりやすく伝えて、なので、この支援が必要なんですとお伝えしていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月